冬合宿準備山行　富士山（と靴）

2009 年 12 月 13 日
後藤(Ｌ)、平本（記）

　この正月山行は山本リーダーのもと、穂高へ行く予定だが、自分はまだ今シーズン一度も雪の上を歩いていない。会では雪上訓練を行っているが、自分はまだそのレベルではなく、アイゼン歩行練習を目的に富士山へ向かった。
この日の富士山は大変に温かく、厳冬期用レイヤードでは汗が流れ、その後に冷えがきてつらい。５合目までは雪も少なく、プラ靴での登りも堪える。５合目に着いたら積雪凍結の有無に関わらずクランポンを付けるのが私のルール。後藤さんは新しいスカルパで順調に登ってゆくが､私は靴が合わず歩きにくい。前夜はたっぷりと睡眠をとったのに、眠気がひどく、歩いていてもまぶたが堕ちてくる。半ば居眠り歩行を続けていると、６合目あたりで釣さんＰと出会う。なおも登り、７合目付近で引き返す事にする。
気温は高く､厳冬期の厳しさは感じられない。風も穏やかで緊張感に欠ける。
それは今日、天候に恵まれたからであり、数日後、厳寒と強風で登山者に襲いかかるなどとは今日の天候では想像できない。
靴について～
私のプラ靴は５年目だが、足の形が変わったためか、アタリがひどくなり、山行に耐えなくなった。加齢や筋力の衰えなどで足の形が変わるものと想像します。
近年はプラスチックに代わり皮革製+保温材の冬用登山靴（シングル）が主流になりました。
これまた私の想像ですが、ゴアテックス等の防水素材に加えて、ステッチから接着剤という製靴技術の変化が軽量で高性能な冬用登山靴を生み出しているようです。
私もアイス用と一般用の軽量な冬用革靴を使い始めていますが、歩きやすさは比較になりません。問題の保温性ですが、軽量アイス用ですら、コフラックよりも数段上です。厳冬期でも足が冷たいと思うことは希です。足の凍傷の原因の一つとして、汗などの水分がインナーに残留してしまう事がありますが、革製の靴の方がその点も優れている様に思います。但し、耐久性はプラスチックと変わらないようです。概ね５年くらいとか。値段を考えると､１シーズン１万円位の償却ですので、１山行あたりの靴代は高いものになりそうです。それでもこの快適さは他に代えられないものがあります。
あと、アイゼンですが、なぜかトウの形が毎年のように変えられてしまいます。靴とアイゼンは同時に買い換えるのが確実ですがそうもいきません。私はワンタッチ式は止め、バンド式を使うことにしました。これなら靴を変えてもほとんどの場合はそのまま使えます。グリベル製の樹脂製サポートが付いたモデルは靴を選ばず、装着簡単、足を圧迫することもない優れものでお勧めです。
私の部屋には相棒のいなくなったシャルレのｓｕｐｒｅ１２が転がっており、新しい相棒を捜しています。

12/13　馬返し 6：35～佐藤小屋 9：20（10：00）～７合目 12：35（13：00）～佐藤小屋 13：45～馬返し 15：20
地形図：山中湖(2 万 5 千)